当日は未だ半分以上の学生が

全員進学志望との事だが

補完性を以

先生への謝恩記念事業唯一の

れこそ我々同窓生に可能な、

進路未決定で

発行所

東京都板橋区東新町2の28の1

TEL (956) 3 1 5 7 ~ 9 番 城北学園同窓会幹事会 責任者 共立速記印刷株式会社

訓 勤

質組は百名前後と 如何ばかりであったろう。 ぞお喜びになって居られたこ

業生としては何とも寂しい限 喜ぶ次第ではあるが、 各期の代表、 らず、 の儘と、諸君に報告し、 教育にかけられる情熱も変わ 北埼玉の理事長に略御専念。 かくしゃくとして、現在は城 御勇退の報を聞きつけて 八十四才の御高齢乍ら、 お酒もタップリ召し上 増上での長訓話も昔 又は個々人から 我々卒 活用を学校当局にお願い は

蔡鸾活動、「近藤薫明先生記念

諸君の御理解を得て、此の

先生のお気持でもある。

なが後輩に贈る、 世重な宝物

実りの有るものにして締めく

くりたいと念願している。

奨学基金」の設定を是非々々

た事は昨年の会報で御承知の とと推察中した 学校長を御勇退され その近藤先生、 ける。

運用理念にも若干相違がある て前記理念を中心にした有効 金」との整合性、 とは云之基金に限界も有り、 学基金」発想の原点である。 あった」との先生の御述懐が 藤先生御在任中にも何人も居 かざるを得なかった生徒が近 御承知の通り、現在母校に 「井上奨学育英基金」もあ 有意義に運営されている 「近藤基金」は「井上基 「近藤薫明先生記念獎 「それが私の痛恨事で

健児此処に在り。 受け継がれたりと感激的であ の制服に身を固めた全員の立 われるにも拘らず、 歴史を経て揺るぎなき大樹に 店振舞キビキビとして、。城北 た城北洋関は、 第一回僅か百数十名 六年市ヶ谷台に産事 の感を深め 四十二年の の会」に於いて公式に表明 催された「近藤薫明先生感謝

に参列された前校長・現名数 先生にも快くお受け頂いた。 御激励の営棄と早々とお申込 上げる次郊である。 らず御出席頂いた学園及びP て発展を続けてきた略には 我が国が高度経済成長を誇 A関係者からも、 いた事は真に有り雖く、 を借りて厚く御礼中し その場で同窓生のみな 数多くの

の同窓生も今や、

方名。

薬を中断して学園を去って行 不時の経済的理由に依って学 て居る。 謝恩の気持を込めて是非複数 足しようとしている。 口を応募して頂きたいと考え 学生諸君等若い同窓生諸君に は本紙に同封される筈である。 口でも良い。逆に一本立ち 勞全趣意出 一ロ一万円をお願いしよ いる多くの同窓生には、 出来るだけ多くの先 扱込み川紙等 人寄って

同窓会では数回の運営会議や 先生御自身の御意向をも斟酌 定こそ近藤先生への謝恩の道 行志との思談会を通じ、 の常任幹事会に於いて、「近藤 無明先生記念奨学基金」の設 。同窓会として何か記念事業 扱終的には昨年九月四日 と幾多の提案を頂いた。

学園に留める有意義な事業で シャイン・プリンスホテルで あると決議した。 次いで十月七日、池袋サン 先生のお名前を水く

お元気で御活躍の

「募金」は活字で書けば僅 投々は、 川話役とな 実際の募金 又々感激

動を展開することとなり、 到· PT する次第である。 菜の輪は一段と拡大すること 先生の徳の高さに、 常任幹事各位を始め、 活動は生易しいものではあり か二字で済むが む理事各位の御理解と、 になった。 る好金実行委員会を組織し、 理事長・校長を含 全員の

理解と協力を軸に、 A三位一体の募金活

亦及、 同窓会を原動力とし乍ら、 交換させて頂いた結果、学校 田辺常務理事、 全面的に御妖同項き、 い頂き意見を 原学校

同窓会会長



黑明兀土記念

同窓会名誉会長 城北学園 校

的信念によるものと、

あらた

を私がお預りしようと運用さ

めて頭の下る思いであります。

年はあたかも世界大戦に突入

思えば本校開設の昭和十六

経営の手腕ご努力とその教育

恵に浴し、

今日なおその基金

ひとえに近藤薫明先生の

の席を列ねることをえたこと

開設された井上奨学基金によ

り多くの逆境の生徒がその恩

校を開設されてその経営に没 私どもも生徒たちもなに不自 ご斗志と教育的情熱には、 だただ驚嘆するばかりです。 おられますが、 上福岡の地に堂々たる新設高 田なくこの学園に学びうる幸 して世界に勇飛するに至り、 した努力によって驚異の復興 いに祖国は一億の心を一に 着実に実績を挙げて 今や再び大国と その不死身の

私も晩天に明星を見る気持ち

先生本来のご素志にかない

まさに当を得たものとして、

この事業の趣旨がまさに近隣

たとの由を承わりましたし、

の計画を快よくご承引なされ

来ならば悠々たるご余生をお 感慨を新らたにするところで 今月近藤先生には、 新らしく埼玉県 を機に、 を受け、 にされた同窓生のご一同が、 本学建設の苦難を共 泉川同窓会長をはじ く近藤先生のご訓蔵

送りになるべきところを、

でに三年前、

期せず

近藤先生への謝

恩の事業を興そうと蹶起され

その結果、

「近藤薫明先生記念

奨学基金」の設立ということ

が打出れることになったと聞

き及びました。

近藤先生もこ

近藤先生ご勇退

あります。

たことから想像し、

これまた

作りの艱難辛苦を踏破するに

と打続く時代に、

引き続く飢餓困窮の

やがて未曽有

かばかりか身命を睹され

真に功成り名を遂げられ、

先生のご素志を継承拡充すべ く思考を重ねていたところで しかしながら、 ただいておりますが、 残念ながらその効果 その基金の増額の 当時に比して

四十余年、 大を成し、 年市ヶ谷台での誕生から僅々 名を数えるに至り、 まさに の高校中進学の名門としてそ 心に銘ずるのです。昭和十六 ぶ生徒諸君の幸せをひとしお 中高約二五〇〇名の生徒がこ 舎総面積一八二〇〇へーべ、 ぶ広大な校地に配置され、 設等が三七〇〇〇へーべに及 花のほころびる広いグランド する私ども教職員、 こに学んでいる姿を思い浮へ、 林立する校舎やさまざまの施 って四方を見渡しますと、 の後事を付託されてからよう 近藤薫明先生より城北学園 「大いなる遺産」の感 あらためて深井・井 今や同窓生二万余 よくぞここまでの ここに職を奉 今国五千 ここに学 おります。 校設立の祖井上源之丞先生が それゆえ、 現実にあらわれている実情に らざるをえなくなった先徒も え耐えがたくなり、 校の最低の部類にとどまって も種々の事情でこの負担にさ ご配慮を重ねられ、 とであります。 ざるを得なかった先徒たちが でもその負担額は都内私立高 学費負担を極力少くするよう 先生の四十余年に及ぶ校長ご せに浴していますが、 あったということだ、 が貧乏なるが故に学園を去ら きをたずねて新しきを知る」 を正すのであります。 の先哲の教えにおのず 心をいためております 昭和二十六年、 しかもなお現在で 先生は父母の 本校を去 今日現在 とのこ

故

(同窓会運営会議より)

同窓生・学校関係者・父兄並

賛同しご協力を下さる多くの

その額は一人につき年

すらに期待すると共に、私ど

もも全面的な協力の労を惜し

ご奉拾の多からんことをひた

びに一般の方々の寄せられる

で賛意を表しました。

この上は、 教頭一名、 り、まことにご同度の限りで 基金設立の具体的活動の発足 を諒承、次いで二月二十六日 あります。 を見、活動に入った次第であ 具体的実施方法等を協議して 学基金規定及び募金に関する の第二回準備委員会では、 合して協議し、井上理事長よ 及び副会長一名、学園本部よ 日、第一回の設立準備委員会 り打出された基本的方向付け て種々の工作に奔走なさいま 放立実現のために英知を傾け 事務担当者二名の諸氏が会 その結果、去る二月二 学校側から校長及び 同窓会からは会長 この基金の趣旨に

基金 運営方法につ

まないつもりでおります。

万円位となろう。 第一回募金目標額は三五〇〇 然し、基金の果実を以て運用 標額を特に定めてはいない。 用することにしている性格し、 し、原則として給費方式を採 同窓会では、募金の最終日

算について学校長から報告

的とし、(中略) 子算及び決

の諮問にこたえることを

基金の受入れ・運営の為に 学校当局と同窓会側の双

奨学会両規程の抜萃を以てお とになっている。以下基金と から三名の委員を選任するこ て奨学会が設けられ、同窓会 できて居り、規程第四条に従 方協議上「奨学基金規程」も って、学校長の諮問機関とし

称ちいただきたく、

切にご健

金の効力が発効される日をお

改立をお祝いし、その成功を

藤先生もさぞかしご本懐かと

孙察中上げます。

この基金の

な学園同志の一灯であり、

適な泰仕の理想はまさに貴重

するが故に学園を去らねばな

らない学友を救おうという高

いするに至りましたが、困窮

かつ同基金へのご協力をお願

以上いささか経過を含め、

近藤瀬明先生にはますますご

心からお祈りすると同時に、

「近藤基金」 応募は既に 始まつている!

会に於て、 されるや、 られ、既に百件を下らない。窓会への問合せも数多く寄せ もある通り、 官庁の認可・証明手続きは、 行なわれ、その後も学校や同 四月十四日付を以て無事完了 名前を永く記念し、 で開始されることになる。 な募金活動は、 ら報告が有った。従って正式 る同窓会の趣旨・決意が表明 した」旨、同窓会泉川会長か へ有意義な餞となる「近隣基 「感謝会」で基金設立に関す 同窓生諸君!近藤先生のお 処が、冒頭会長の挨拶文に 四月十六日開催の常任幹小 へ勇跳参加しようではな 「夢金に関する所料 即日申込や納入が 昨年十月七日の 本会報の配布 後號階沿 授業料相当額を上限とする 第六条 2.奨学金は原則として給費と 則として第五条基金の運用 念奨学基金」の口座を設 る銀行に「近藤薫明先生 の果実の範囲とする。 運用・保管するものとす 安全且つ有利な方法を以て

募金・実行委員会 同窓会常任幹小会

第一条 金の維持運営に関し学校長 記念奨学会と称する。 「奨学会規程」(抜萃) 本会は近藤薫明先生 本会は (中略) 本

第三条 を受け、 学校・同窓会より選任され て構成する。 たそれぞれ三名の委員を以 とができる。 本会は学校長の他に 意見を具申するこ

第四条・本会に下記の役員を 置く。 副会長 同窓会長 学校長

第一条 本学園は近藤薫明 第二条 本基金は近藤薫明 生の業績を記念し、学園 生記念奨学基金と称する 校生をしてその修学の目 以て奨学基金を設定する を全うせしめ、 八材の育成に資する目的 奨学基金規程」(抜萃) 将来有為

第四条 本基金の維持運営に 第五条 本基金は、別途定 関する諮問機関として、 以て奨学会を置く。 に教職員及び同窓会有志を 「近藤薫明先生記念

毎年の奨学金は、

城北学園名誉学園長 本校は昭和-校と動静をともにして来ま-ら創立準備に着手し、 W客の 裏に 挙行される ことは 十六年に創立され

三五回の卒業式が挙行され私 久し振りにこの演壇に立って 本稿は其の時の意図を敷衍し 去る三月十四日城北高校第

育ったもの

会名誉会長

並に通信機能の異状な発達は 洋時代に遺入った。更に航空機海洋産業の発展を計り所謂海 分は公海として海洋の =前代以来懸案の境界線も正 し各国は領海域を拡げたが大

度胸を養うことが大切で、

こにも日本我と国際的環境と

優秀な日本人としての襟度と

とは遺憾なこと のであります。 世界中から羨望 界第二位の経済 の間に生れそし て見られており 政高最大の発展 なくなるもの た、つまりこ はそ 立国が誕生し、今やこれのに独 発展途上国の 相違はあるが地 収争に勝てばその代徴として を置いたので国家の発展もこ 球上の土地の殆んど大部分は 相手の国土の割譲を受けるこ れを拡張することを主眼とし 五〇国突破の独立

としているから国法では個 は三年間これを体験して来た 言自由について感想を述べ 本校では着実動勉自 自己滅亡につながり社会混乱を引き起すから暴力行為と同から一生涯の強強に許されない。自分の追求では孤立して多くを失うから協調して自己利益のの国際社会でも国家は国立ではこれを選ぶ外ない。真の自由をはまからではこれを選ぶ外ない。真の自由をはまいではこれを選ぶ外ない。真の自由をはな生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立な生涯を築くように行って対立なりません。その武士をしております。側と致します。

「なりません。今回計画を意味する。があるから世の中ではこれを選がある。どうか三年前に体験したがある。とうか三年前に体験したがある。とうか三年前に体験したの本業生の金貴は私の遺伝に当り同窓会は表立の作品を対けている。自由の選択を知るなります。側と致します。の本業生の金貴は私のように行って知をなります。側となって後輩の励みを諸君がある。としてわれわれ、同門の友がなる。とうか三年前に体験したの本業生の金貴は私の遺伝に当り同窓会諸君がはません。今回計画の記が表達としておれわれ、同門の友がをして記述されている。または、これに及ぶ喜びはあります。

住宅も上福岡 市に転居致

とは質の異った高度の物質文

0

活している人類は総て近隣の

その上に

このよ

人となっている。世界は既に

共存共栄の国際時代に遺入っ

ている。従来は日本国家にお

る優秀な国民となることを

思い心から安堵 壮行の辞を述べ 努力を続け着々 の基盤は強固に ることを聞き 界に大きな変革が起ろうとし 活に浸透したり。遺伝子 発展変化について行け は色々理由があるだろう。 れを利用する人の心との調和 な物質文化発達はこの物とこ 時代と云われているがそれに 明が起ることは間違い 発展は人間を含む生物 の知能として人間の日常生 た構造改革的なもの いる。単党豊かにして便利 つにはこの激しい時代 現在は世界をあげて不況 夕を普及させ超人 の発展は各種の

終生目標として来た。

の道であるが更に一

多種多様である。

例えば愛で あると云い思いやりと云い仏 である。その表現は古今東西 営む上には不可決な人間の心 は貧富貴賤老若或は人種の如 窓ってはなるまい 構え即ち心の問題であるから らないばかりか教養と鍛練を 紀に向ってその広さ、 (自由) を目標として諸君 一派の禅宗では無心である 古今を問わず社会生活を 及び質の高さにお

THE PARTY OF THE P